

報告(2) ヘルプマーク普及及びヘルプシール作成に関する取組みについて

【令和7年度第2回協議会での報告より】

令和7年7月に実施した市民アンケートの結果、ヘルプマークの利用状況については、「使っていない」が55.2%で最も高く、次いで「そもそもヘルプマークを知らない」が24.0%となり、十分に普及していない現状が明らかとなった。

そこで、外見からは分かりにくい障がいなど、援助や配慮を必要とする方がより円滑に支援を受けられるよう、具体的な援助内容を周囲に伝える「ヘルプシール」の作成に取り組むこととした。

【令和8年度取組みについて】

ヘルプシールの作成にあたっては、部会内の検討にとどまらず、小中学生を含む幅広い層から意見を収集し、内容に反映していく。

令和8年度は、社会福祉協議会が実施する小中学校での福祉教育に参画し、ヘルプマークの周知啓発を行うとともに、児童・生徒からの意見収集を実施する。あわせて、市民参加型合意形成プラットフォーム「きさらづみなトーク」を活用し、広く市民の意見やアイデアを取り入れることで、より実効性の高い取組みとする。

なお、本シールは、令和8年度中に作成及び配布を行う予定である。